

学校法人広島国際学院  
事業報告書

～平成21年度～

## 目 次

I	学校法人広島国際学院の概要	-----	1～9
1	法人名称と所在地	…< 1 >	
2	沿革	…< 1～2 >	
3	経営方針及び教育方針	…< 2 >	
4	教育目標等	…< 3 >	
5	学生生徒等の満足度の向上を支援するための方針	…< 3 >	
6	設置する学校・学部・学科等	…< 4 >	
7	学部・学科等の学生数の状況	…< 5～7 >	
8	役員・教員・事務職員の人数	…< 8 >	
9	ガバナンスの状況	…< 9 >	
10	組織図	…< 10～11 >	
II	事業の実施概要	-----	12～24
	法 人	…< 13 >	
	大 学	…< 14～19 >	
	短 大	…< 20～21 >	
	高 校	…< 22～24 >	
III	財務の概要（平成21年度決算の概要）	-----	25～34
1	資金収支計算書	…< 28 >	
2	資金収支内訳表	…< 29 >	
3	消費収支計算書	…< 30 >	
4	消費収支内訳表	…< 31 >	
5	貸借対照表	…< 32 >	
6	財産目録	…< 33 >	
7	監事監査報告書	…< 34 >	

# Ⅰ 学校法人広島国際学院の概要

## 1 法人名称と所在地

法人名称 学校法人広島国際学院

所在地 広島市安芸区中野六丁目20-1

## 2 沿革

昭和 2年	広島高等予備校を広島市国泰寺町に新設
昭和 4年	広島高等予備校を広島市大手町に移転
昭和 5年	広島高等学院併設
昭和13年	広島高等学院を廃止し、広島電気学校を新設
昭和19年	広島高等予備校を廃止 広島電気学校に高等科を設置
昭和21年	広島電気学校を安芸郡海田町に移転
昭和23年	広島電気学校高等科を広島電機専門学校として新設 学制改革により広島電気学校を広島電機高等学校に移行開校
昭和26年	学校法人広島電機学園を設置
昭和28年	広島電機高等学校に機械科を設置
昭和29年	広島電機高等学校に電気通信科を設置
昭和31年	広島電機高等学校の電気通信科を廃止
昭和32年	広島電機専門学校を廃止
昭和35年	鼓浦女子商業専門学校を新設
昭和36年	広島電機高等学校に工業計測科、工業経営科を設置
昭和39年	広島電機学園短期大学自動車工業科を安芸郡瀬野川町に新設 鼓浦女子商業専門学校を廃止
昭和40年	広島電機高等学校に普通科を設置
昭和41年	広島電機高等学校の工業計測科を廃止し、商業科を設置
昭和42年	広島電機大学工学部を安芸郡瀬野川町に新設
昭和43年	広島電機大学工学部に機械工学科を設置 学校名称を広島電機学園短期大学から広島自動車工業短期大学に改称
昭和44年	広島電機高等学校に自動車整備科を設置
昭和45年	広島電機高等学校から広島電機大学附属高等学校に改称
昭和49年	広島電機高等学校の工業経営科を廃止
昭和63年	広島自動車工業短期大学を安芸区上瀬野町に移転
平成 3年	法人名称を学校法人広島電機学園から学校法人広島電機大学に改称
平成 6年	広島電機大学工学部に情報工学科を設置 広島電機高等学校の商業科を廃止
平成 8年	広島電機大学大学院を新設し、工学研究科修士課程を設置
平成 9年	広島電機大学附属高等学校に総合システム科を設置

平成 10 年	法人名称を学校法人広島電機大学から学校法人広島国際学院に改称
平成 11 年	広島電機大学大学院に工学研究科博士課程（後期）を設置 学校名称を広島電機大学から広島国際学院大学に、広島自動車短期大学から広島国際学院大学自動車短期大学部に、広島電機大学附属高等学校から広島国際学院高等学校に、それぞれ改称 広島国際学院大学に現代社会学部を安芸区上瀬野町に設置
平成 12 年	広島国際学院高等学校の自動車整備科、電気科、機械科を廃止
平成 13 年	広島国際学院大学工学部に設置する学科の名称を電子工学科からメディア情報通信学科に改称 広島国際学院大学大学院工学研究科に知能情報専攻（修士課程）を設置
平成 15 年	広島国際学院大学大学院に現代社会学研究科博士課程（前期・後期）設置
平成 16 年	広島国際学院大学工学部を改組し、情報学部を設置 広島国際学院大学の工学部に電気電子工学科、バイオ・リサイクル学科を新設
平成 17 年	広島国際学院大学大学院工学研究科の電気工学専攻と電子工学専攻の各（修士課程）を電気電子工学専攻（修士課程）に改組
平成 18 年	広島国際学院大学大学院工学研究科の電気工学専攻（修士課程）を廃止
平成 20 年	広島国際学院大学工学部電気電子工学科、機械工学科、バイオ・リサイクル学科を統合し総合工学科に、情報学部を情報デザイン学部に変更、情報工学科を募集停止 工学部電気工学科を廃止
平成 21 年	広島国際学院大学工学部メディア情報通信学科を廃止

### 3 経営方針及び教育方針

建学の精神は、『教育は愛なり』である。この建学の精神は、「学生生徒一人ひとりをとことん大切にする。」本学院創立者鶴虎太郎の教育実践から生まれた。

また、この建学の精神は経営の基本理念でもあり、この基本理念に沿って、大学及び短大にあつては「信和・協同・実践」を教育理念として教育目標を設定し、高校にあつては教育方針を設定している。

教育分野においては、学生生徒の目線に合わせたさまざまな改革・改善を意欲的に取り組んでいる。一方、事務分野においても、これを支援して学生生徒の満足度を一層向上していくために、経営の基本方針及び具体的方針を設定している。

#### 4 教育目標等

(建学の精神) 教育は愛なり

(教育実践) 学生・生徒一人ひとりをとことん大切にする。

##### (1) 大学の教育目標

###### 出会えた、見つけた。未来の夢

- ① 講義や実験、実習体験などを通して、学生の個性と自主性を育みながら、基礎学力を修得する。
- ② 学生同士、勉学や大学での社会的活動を通して協力することにより、視野が広く社会性に富む人材を育成する。
- ③ 大学で学んだ実学指向の専門知識・経験を社会で活用できる人材を育成する。

##### (2) 短大の教育目標

###### 出会えた、見つけた。未来の夢

- ① 国家資格を有する自動車整備士を養成する。
- ② 幅広い教養を基礎に、問題解決能力を育成する。
- ③ 分かりよい授業を心がけ、学生満足度を向上する。

##### (3) 高校の教育方針

###### 明るく楽しく感動にみちあふれた学校

- ① 確かな学力  
自己の未来を切り開くために必要な、目指す進路に対応できる高い学力を育成する。
- ② しなやかな創造力  
あらゆる局面において、常に自己の才能を十分に引き出せる柔軟な思考力を育成する。
- ③ 幅広い視野  
国際社会を生きるために不可欠な、グローバルに物事を見ることができる能力を育成する。

#### 5 学生生徒等の満足度の向上を支援するための方針

##### (1) 基本方針

- ① 学生生徒等顧客を大切に、職場を明るくする。
- ② 調和のとれた仕事の流れを作り上げる。
- ③ 自ら能力開発に努める。

##### (2) 具体的方針

- ① 本学院全体の連携強化と学生生徒等顧客へのサービス向上に心がけるとともに、明るく働きやすい職場の実現に努める。
- ② 業務改善の視点を持って自己点検を行い、「最少の経費で最大の効果」が得られるよう、迅速かつ効率的な業務の遂行に努める。
- ③ 職員一人ひとりがそれぞれの達成すべき目標を定め、常に新しい分野に興味を抱いて、知識の涵養を図るとともに、自己研鑽に努める。

## 6 設置する学校・学部・学科等

### ◆広島国際学院大学◆

大学院 工学研究科

材料工学専攻 博士課程（後期）

計測制御専攻 博士課程（後期）

物質工学専攻 修士課程

機械工学専攻 修士課程

電気電子工学専攻 修士課程

知能情報専攻 修士課程

現代社会学研究科

現代社会学専攻 博士課程（前・後期）

大学 工学部

情報工学科

電気電子工学科

機械工学科

バイオ・リサイクル学科

総合工学科

情報学部

情報工学科

情報デザイン学科

情報デザイン学部

情報デザイン学科

現代社会学部

現代社会学科

### ◆広島国際学院大学自動車短期大学部◆

自動車工業科

専攻科

### ◆広島国際学院高等学校◆

普通科

総合システム科

7 学部・学科等の入学定員、学生数の状況（平成21年5月1日現在）

◆広島国際学院大学大学院◆

学年	研究科	専攻	修士課程			博士課程(後期)		
			入学定員	入学者数	現員	入学定員	入学者数	現員
1	工学研究科	材料工学専攻				2人	2人	2人
		計測制御専攻				2人	0人	0人
		物質工学専攻	6人	7人	7人			
		機械工学専攻	6人	1人	1人			
		電気電子工学専攻	6人	2人	2人			
		知能情報専攻	6人	0人	0人			
	現代社会学研究科	現代社会学専攻	6人	1人	1人	3人	1人	1人
	計	30人	11人	11人	7人	3人	3人	
2	工学研究科	材料工学専攻				2人		1人
		計測制御専攻				2人		0人
		物質工学専攻	6人		6人			
		機械工学専攻	6人		0人			
		電気電子工学専攻	6人		0人			
		知能情報専攻	6人		2人			
	現代社会学研究科	現代社会学専攻	6人		5人	3人		2人
	計	30人		13人	7人		3人	
3	工学研究科	材料工学専攻				2人		1人
		計測制御専攻				2人		1人
	現代社会学研究科	現代社会学専攻				3人		4人
	計				7人		6人	
	合計		60人	11人	24人	21人	3人	12人

## ◆広島国際学院大学◆

学年	学部	学科	入学定員	入学者数	現員
1	工学部	総合工学科	140 人	84 人	84 人
	情報デザイン学部	情報デザイン学科	100 人	65 人	65 人
	現代社会学部	現代社会学科	100 人	50 人	50 人
	計		340 人	199 人	199 人
2	工学部	総合工学科	140 人		80 人
	情報デザイン学部	情報デザイン学科	100 人		71 人
	現代社会学部	現代社会学科	100 人		54 人
	計		340 人		205 人
3	工学部	機械工学科	80 人		42 人
		電気電子工学科	70 人		33 人
		バイオ・リサイクル学科	60 人		48 人
	情報デザイン学部	情報工学科	80 人		38 人
		情報デザイン学科	80 人		47 人
	現代社会学部	現代社会学科	120 人		61 人
	計		490 人		269 人
4	工学部	機械工学科	80 人		50 人
		電気電子工学科	70 人		24 人
		情報工学科			1 人
		バイオ・リサイクル学科	60 人		45 人
	情報デザイン学部	情報工学科	80 人		43 人
		情報デザイン学科	80 人		55 人
	現代社会学部	現代社会学科	120 人		78 人
	計		490 人		296 人
合計			1,660 人	199 人	969 人



◆広島国際学院大学自動車短期大学部◆

学年	学科等	入学定員	入学者数	現員
1	自動車工学科	130 人	72 人	75 人
	整備工学専攻	10 人	6 人	6 人
	計	140 人	78 人	81 人
2	自動車工学科	130 人		83 人
	整備工学専攻	10 人		11 人
	計	140 人		94 人
合計		280 人	78 人	175 人

◆広島国際学院高等学校◆

学年	学科等	入学定員	入学者数	現員
1	普通科	280 人	294 人	296 人
	総合システム科	120 人	129 人	129 人
	計	400 人	423 人	425 人
2	普通科	280 人		262 人
	総合システム科	120 人		88 人
	計	400 人		350 人
3	普通科	280 人		221 人
	総合システム科	120 人		113 人
	計	400 人		334 人
合計		1,200 人	423 人	1,109 人

## 8 役員・教員・事務職員等の人数（平成21年5月1日現在）

	教員			職員			合計
	常勤	非常勤	小計	常勤	非常勤	小計	
法人	0人	0人	0人	12人	12人	24人	24人
大学（大学院を含む。）	72人	77人	149人	29人	46人	75人	224人
短大	18人	5人	23人	5人	8人	13人	36人
高校	63人	29人	92人	4人	13人	17人	109人
計	153人	111人	264人	50人	79人	129人	393人

### （役員・教員・事務職員等の人数内訳表）

#### (1) 役員的人数

理事	12人（うち、理事長1人）
監事	2人

#### (2) 教員的人数

##### ◆広島国際学院大学大学院◆

	専任					兼任教員	非常勤講師	合計
	教授	准教授	講師	助手	計			
工学研究科	0人	0人	0人	0人	0人	35人	3人	38人
現代社会学研究科	0人	0人	0人	0人	0人	11人	0人	11人
計	0人	0人	0人	0人	0人	46人	3人	49人

##### ◆広島国際学院大学◆

	専任					非常勤講師	合計
	教授	准教授	講師	助手	計		
工学部	18人	5人	7人	0人	30人	9人	39人
情報デザイン学部	10人	4人	9人	0人	23人	10人	33人
現代社会学部	8人	6人	4人	0人	18人	24人	42人
総合教育センター	0人	0人	0人	0人	0人	22人	22人
地域連携センター	0人	1人	0人	0人	1人	0人	1人
教員免許状更新	0人	0人	0人	0人	0人	9人	9人
計	36人	16人	20人	0人	72人	74人	146人

##### ◆広島国際学院大学自動車短期大学部◆

	専任					非常勤講師	合計
	教授	准教授	講師	助手	計		
自動車工業科	6人	4人	6人	2人	18人	5人	23人
計	6人	4人	6人	2人	18人	5人	23人

##### ◆広島国際学院大学高等学校◆

	専任			期限付教諭	非常勤講師	合計
	教諭	養護教諭	計			
普通科	57人	1人	58人	5人	29人	92人
総合システム科						
計	57人	1人	58人	5人	29人	92人

#### (3) 事務職員的人数

	法人事務局	広島国際学院大学	広島国際学院大学自動車短期大学部	広島国際学院高等学校	合計
事務職員	12人	29人	5人	4人	50人
技術職員	0人	0人	0人	0人	0人
嘱託職員	2人	3人	1人	0人	6人
非常勤職員	9人	30人	7人	11人	57人
派遣職員	1人	2人	0人	1人	4人
業務委託職員	0人	11人	0人	1人	12人
計	24人	75人	13人	17人	129人

## 9 ガバナンスの状況

学校法人の基本的な管理運営機関は、理事会、監事及び評議員会である。

理事会は、学校法人の最高意思決定機関である。

また、監事は理事会の重要な監視機関として位置づけられており、学校法人の内部統制の機能を果たす。そのために、監事は監査結果を理事会だけでなく、評議員会にも報告することが義務づけられている。同様に、評議員会も理事会のチェック機能としての重要な役割を担っている。

理事長は、事業計画や事業実績について評議員会に報告し、意見を求めることが義務づけられている。

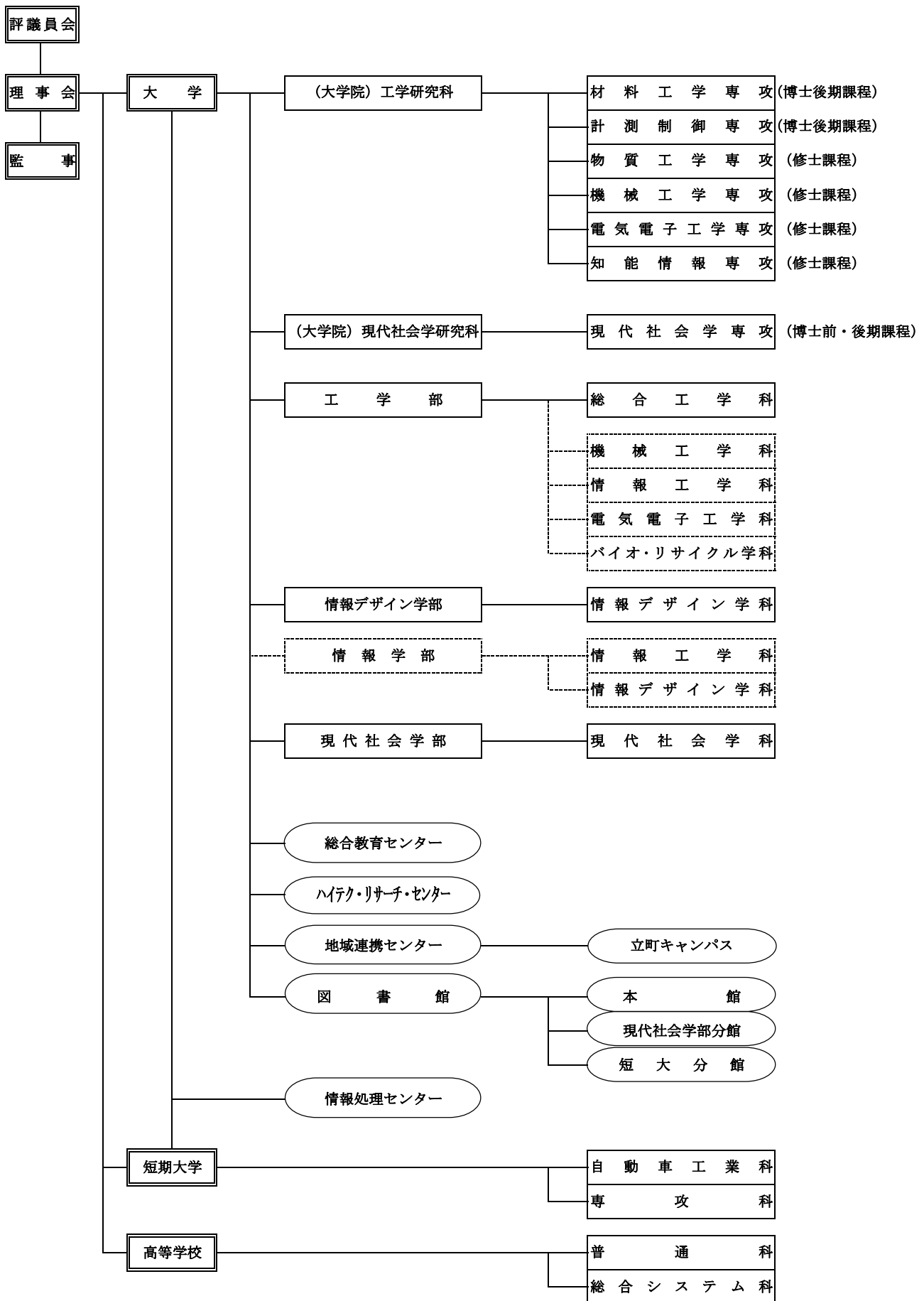
このように理事会、監事及び評議員会は、それぞれの役割分担と責任・権限が明確にされており、相互にチェックされる仕組みになっている。

### 理事会・評議員会開催状況

区 分		開催年月日	主要な審議事項
定例	理事会・評議員会	平成 21. 5.27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 20 年度事業報告、決算</li> <li>・大学学則の一部改正</li> <li>・評議員の選任</li> <li>・平成 20 年度監査</li> </ul>
臨時	理事会	平成 21. 6.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「HKGU 学生寮（仮称）」の建設</li> </ul>
臨時	理事会・評議員会	平成 21.9.14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校「国際橋」（仮称）の架け替え工事（業者選定、借入金の申込み）</li> <li>・学生生徒等の納入金に関する規則の一部改正</li> </ul>
定例	理事会・評議員会	平成 21.12.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・懲戒委員会</li> <li>・大学のキャンパス統合</li> </ul>
臨時	理事会	平成 22. 2.12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校学費（授業料）の改正</li> <li>・広島国際学院高等学校の「国際橋（仮称）」の正式名称</li> </ul>
臨時	理事会	平成 22. 2.24	<ul style="list-style-type: none"> <li>・懲戒委員会の審査結果</li> </ul>
定例	理事会・評議員会	平成 22. 3.29	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理事の選任</li> <li>・評議員の選任</li> <li>・平成 21 年度補正予算</li> <li>・平成 22 年度アクションプランと当初予算</li> <li>・大学院学則の一部改正</li> <li>・大学学則の一部改正</li> <li>・短大学則の一部改正</li> <li>・寄附行為の変更</li> </ul>

10 学校法人広島国際学院組織図

1 教育及び研究施設





## 平成21年度 事業の実施概要

本学院として取り組んだ主な事業は、次のとおりである。



1 学生・生徒に最高の教育を提供

事業計画	事業報告
<p>①ものづくり・ひとづくり</p>	<p>(1) ものづくりセンターの整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖展示コーナー パネル、試作品等を展示し、学内外にアピールすることを目的としている。</li> <li>❖内装整備 ものづくりセンター内に、仕切り・天井等を取り付け内装を施すとともに、パネル展示用レール陳列台を設置した。</li> <li>❖太陽光発電設備 太陽光発電設備（約400Wh）は、ものづくりセンター横の斜面に設置し、センター内の電源として利用するとともに電気自動車等の充電に用いる。</li> <li>❖展示コーナー以外のスペース エタノール車、BDF 燃料車等の大型の試作品製作が可能であり、工作、塗装設備等を導入している。</li> </ul> <p>(2) 地域・海外体験の試験的实施</p> <p>①オレゴン言語文化研修ツアー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖3月1日から15日までの日程で教員1名と5名の学生が参加し、海外研修を行った。</li> <li>❖第1週目は、米国オレゴン州立大学で英語研修、第2週目はカリフォルニア州等を観光旅行した。</li> </ul> <p>②異文化体験</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖12月中旬にフィリピンのセブ島周辺で8日間かけて、スキューバダイビング体験と第二次世界大戦の戦跡めぐり、現地住民との交流を行った。</li> </ul>
<p>②ゲーム機能充実</p>	<p>□整備状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖ゲーム制作の一連の教育を行うためにゲーム作品の事例研究が可能な環境として今年度末に新設した。</li> <li>❖最新のテレビゲームは操作できる状態で、また歴代のテレビゲームは可能な限り操作できる状態で展示する予定にしている。</li> <li>❖学生に対しては、主として授業などでのゲーム室利用によりゲーム制作意欲の向上に役立てる。</li> <li>❖学外（主として高校生）に対しては、オープンキャンパス及びミニオープンキャンパスなどで公開する予定にしている。</li> </ul>
<p>③学外著名人の招聘</p>	<p>□ガッツ石松・川島なお美、客員教授による社会学合同演習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖「プロの仕事論」を統一テーマとし、プロとしての職業意識や目標、心構えなど一流の考え方に触れることにより、学生の将来設計や生きがいに指針を与えることを目標として、両客員教授による社会学合同演習を実施した。</li> <li>➢川島なお美：5月20日(水)、10月21日(水)</li> <li>➢ガッツ石松：7月8日(水)、12月9日(水)</li> </ul>



<p>④TA・SAによる教育補助</p>	<p>□TA (ティーチング・アシスタント) は、従来、実験・実習・演習の補助者として活用していたが、学部生を学習指導補助に活用するSA (スチューデント・アシスタント) システムの導入を総合教育センターで検討し、今年度については試行的にスタートさせた。</p> <p>①TAによる学習補助</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖工学部 3名採用し、化学実験や機械工学実験などの実験補助を行った。</li> <li>❖情報デザイン学部 2名採用し、情報関連授業の実習補助を行った。</li> <li>❖現代社会学部 2名採用し、調査のデータ処理、情報リテラシーの情報実習補助を行った。</li> </ul> <p>②SAによる学習補助</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖3名採用し、各1名はそれぞれ今村学長の下で微積分I、II及びその演習補助を、(現代社会学部)栗原准教授の下で経済学Iの学習補助を、(工学部)松尾教授の下で回路理論I、IIの学習補助を行った。</li> </ul>
----------------------	---

## 2 より一層の個性化と特色化

事業計画	事業報告
<p>●教員免許更新講習会</p>	<p>(1) 平成21年度教員免許更新講習会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤必修講習…8月3日～4日 6時間×2日</li> <li>➤選択講習…8月5日～7日 6時間×3日</li> <li>➤会 場…中野キャンパス</li> </ul> <p>(2) 教員免許更新講習会の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖8月3日(月)～7日(金)の5日間にわたって開催した。</li> <li>❖受講する講座を自由選択制にしたため、手続き等は複雑になったが、それぞれの目的に合わせて連日60名以上の先生方が参加した。</li> <li>❖必修講習は、テーマ毎に学外からも専門の講師を多数招聘し、それぞれの特色が発揮された講習を2日間開催した。</li> <li>❖選択講習では、本大学の各専門を活かした講習を3日間実施した。</li> <li>❖事後アンケート調査では、内容・方法、知識・技能の修得の成果、運営の全てにおいて高い評価を得た。</li> </ul>

### 3 安全・安心、快適サービスを提供できる施設・設備の整備充実

事業計画	事業報告
①女子トイレの改修	<p>□中野キャンパス女子用トイレの施設・設備の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖9号館1階、10号館の各階の女子トイレを改修し、姿見、警告ブザー、ウォッシュレット、広い洗面台等を備えた他の女子大学とほぼ同等の高級感のある快適なトイレとなった。〔来年度の改修は3号館を予定している。〕</li> </ul>
②食堂・売店のリニューアル	<p>(1) 食堂リニューアル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖キャンパス統合を機に、中野キャンパスの2つの食堂を学生会館の1箇所にし、その運営業者を広島駅弁当株式会社に替えた。</li> <li>❖厨房機器の一部を取り替え、バイキング用の機器も整備した結果、メニューも豊富になり味も向上した。</li> </ul> <p>(2) 売店リニューアル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖食堂リニューアルに合わせて、コンビニエンス・ストアのヤマサキ(Yショップ)に替え、雰囲気も明るくなり利用しやすくなった。</li> </ul>
③校舎等の耐震診断	<p>□今後検討を進める。</p>
④視聴覚機器の修理	<p>(1) PBXデジタル交換機切り替え</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖PHSサービス停止に伴い、より廉価な電話サービスとして、3月末にPBXデジタル交換機を使用するIP固定電話に切り替えた。</li> <li>❖内線番号と外線番号は、従来のPHS電話番号を引き継いでいる。</li> </ul> <p>(2) 学生会館防音工事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖吹奏楽の練習による近隣への騒音を防ぐため、学生会館3階のイベントホールに防音工事を施した。</li> </ul> <p>(3) 視聴覚機器修理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖9号館922号室及び932号室の視聴覚設備が老朽化したので、プロジェクターを取り替えた。</li> </ul>

### 4 高大連携の一層の充実

事業計画	事業報告
●高大連携	<p>(1) 出張講義</p> <p>①系列高校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖おもしろ技術体験、ロボットカーを使ったプログラミング体験、おもしろ社会ウオッチング、コンピュータを使ったデザイン制作の体験、学部学科模擬授業、オープンスクールでの公開授業などの講義や実習などを行った。</li> </ul> <p>②他の高校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖直接本学に依頼のあった出張講義は8高校16件、また、業者を経由したのも多数あった。</li> </ul> <p>(2) オープンキャンパス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖7月5日、8月2日、9月12日にオープンキャンパスを実施した。</li> <li>❖このほかにミニオープンキャンパスを数回行った。</li> </ul>

	<p>(3) 高大連携協定</p> <p>①三次青陵高校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖11月13日に立町キャンパスにおいて三次青陵高等学校との間で高大連携協定事業締結の調印式を行った。</li> <li>❖今後、双方からの出張授業を通じて連携を深め、さらに教育手法や教材作成のノウハウを交換する予定にしている。</li> </ul> <p>②福山工業高校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖既に高大連携協定を締結している福山工業高等学校との間の連携事業の一環として、廃棄物からのリサイクルに関するものづくり体験実習を本学で実施した。</li> <li>❖その成果を1月29日に福山市で開催された「学習成果発表会」で発表した。</li> </ul> <p>(4) 大学間連携協定</p> <p>①中国ハルビン師範大学恒星学院との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖4月3日にハルビン市でハルビン師範大学恒星学院との間で友好協定を締結し。</li> <li>❖この締結を受けて9月から沼野元教授が現地に赴き日本語講師として授業を担当している。</li> </ul> <p>②タイ王国との学術交流等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖タイ王国との学術交流・共同研究協定により、交換研究生として来日したチェンマイ大学農業生産学部のカムラット講師が12月15日に学位論文発表会を行い、審査の結果、工学博士の学位を取得した。</li> </ul>
--	--

## 5 地球環境にやさしい学院づくり

事業計画	事業報告
●エコヤードの整備	<p>(1) 本大学の敷地内の山林、河川等を利用して通称“国際学院ダッシュ村”の整備を進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖河川周辺の整地を行うとともにALA（成長促進剤）を使用した水田も設けて学生たちと田植を行い、昼食を兼ねて料理指導も行った。</li> <li>❖学内“のり面”の美観がこれまでも問題になっており今年度は、試験的に蕎麦、ブルーベリー、野菜等を植えることを試みた。</li> <li>❖サンサンテラスには、屋上緑化を兼ねてトマト栽培、野菜栽培を行い、温室では産学連携事業としてリサイクル培地を用いたシイタケ栽培を行っている。</li> </ul> <p>(2) 合同産業との連携事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖同企業の施設においてトマトの水耕栽培装置を新たに開発した。 [来年度には学内に移設する予定にしている。]</li> </ul>

## 6 地域における知識とノウハウの提供

事業計画	事業報告
①イルミネーション	<p>□12月12日(土)、第3回瀬野川イルミネーション点灯式が「ほことり広場」において実行委員会主催のもと、近隣の企業等の協賛や地域団体、本大学及び系列高校の協力により行われた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖本大学のバンドサークルの演奏、学生有志による仮装、ロボット実演を行い、VODが放送関連全般を担当した。</li> <li>❖留学生やボランティアサークル等がバザーを出店した。</li> <li>❖ポスターのデザインは情報デザイン学部が協力した。</li> </ul> <p>[瀬野川イルミネーションは12月25日(金)まで続いた。]</p>
②地域との交流促進	<p>(1) 地域との行事を通じた交流</p> <p>①サマーフェスティバルinほことり2009 [8月22日(土)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖安芸区中野のほことり広場において、「サマーフェスティバルin ほことり2009」が中野東学区連合町内会の主催で開催された。</li> <li>❖本大学学生も案内チラシやポスターの制作、音響や祭りの進行を担当するなど、約35人の学生が夏祭りの開催に協力した。</li> </ul> <p>②かいた七夕さん [7月11日(土)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖海田町の夏祭り「かいた七夕さん」が畝公園で開催され、本大学から学生ボランティアと教員約14名が参加した。</li> <li>❖本大学からは各種実演・販売、ステージの音響機材を担当し、地域の方から好評を博した。地域との交流の場として定着しつつある。</li> </ul> <p>③環(ワ)ッハッハinよしじま2009 [10月11日(日)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖広島市環境局主催エコまつり「環ッハッハinよしじま2009」にバイオエタノール燃料オープンカーを展示し、環境教育・活動の推進に協力した。</li> </ul> <p>(2) 子どもの安全な環境づくり [12月4日(金)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖本大学において、教育における安全確保に係る授業の一環として広島県県民活動課主任企画員を講師に招き、「子どもの安全な環境づくりの取り組みについて」をテーマに特別講義を実施した。</li> <li>❖本大学の教職を目指す学生、瀬野川地区小・中学校の教職員と保護者、地域の自治会、本学院職員が参加した。</li> </ul>
③環境の日ひろしま大会	<p>□環境の日ひろしま大会に参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖環境の日ひろしま大会実行委員会の主催により実施された「環境の日」ひろしま大会に、本大学からバイオ燃料車の展示とエコキャンパスの実例を紹介した。</li> </ul>
④地域への奉仕活動並びに地域との交流活動	<p>□中野キャンパス・クリーンキャンペーンを実施し、本大学の学生、職員、地域住民が参加し、周辺地域のゴミゼロ作戦を展開した。</p>

## 7 その他

事業計画	事業報告
<b>①</b> 現代社会学部キャンパス 移転	<b>□</b> 移転計画の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>❖総合計画に基づく主要事業の一環として、現代社会学部の全機能を上瀬野キャンパスから中野キャンパスに移転統合する計画を実行した。</li> <li>❖物理的に移転を実施した2、3月の業務遂行について、若干の懸念はあったものの、移転は大きなトラブルもなく、無事完了した。</li> </ul>
<b>②</b> 大学第3者評価	<b>□</b> 受審経過 <ul style="list-style-type: none"> <li>❖5月1日現在のデータに基づいて作成した自己点検評価報告書及びデータ編を6月下旬に日本高等教育評価機構に提出した。</li> <li>❖9月末に本大学担当の評価チームから書面質問があり、その回答と追加資料を10月に提出し、11月25日～11月27日に実地調査を受けた。</li> <li>❖1月に調査報告書案、2月に評価報告書案を受け取り、それに対する意見申し立てを行った。</li> <li>❖3月末に評価機構の大学評価基準を満たしているという認定証を受け取った。</li> <li>❖認定期間は平成21年4月1日から平成28年3月31日までである。</li> <li>❖ただし、本大学の研究目的を達成するために必要な財政基盤を早急に改善し、平成26年7月末に認証時以降の財務状況に関する報告書を提出することという条件が付されている。</li> </ul>
<b>③</b> 産学連携	<b>(1) 合同産業との連携</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖合同産業株式会社の50周年記念事業の一環として、社会貢献の観点から本大学との間で産学共同事業の提携を行った。</li> <li>❖連携事業の内容は、合同産業50周年記念コミュニケーションツールの開発、水耕栽培による屋上緑化の実証実験、恐竜ロボットの製作、広島原爆犠牲者の水質保全と水環境保全である。</li> </ul> <b>(2) その他企業との連携</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖共同研究している企業は、三菱重工業(株)、(株)サタケ、関西電力(株)、住友化学(株)等がある。</li> </ul>
<b>④</b> 文部科学省学生支援推進 プログラム	<b>□</b> 学習支援推進プログラム <ul style="list-style-type: none"> <li>❖平成21年度「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラムに「全人的教育課程の構築による学士力確保と就職支援強化への取組」テーマで応募し、採択された。</li> <li>❖期間は平成21年度から3年間、金額は合計約3,300万円である。</li> </ul>

1 学生・生徒に最高の教育を提供

事業計画	事業報告
<p><b>①</b>とことん面倒を見る教育の強化</p>	<p>(1) 入学前事前教育〔通信添削の実施〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖例年どおり入学予定者全員に対し実施し、添削は教員が行った。</li> </ul> <p>(2) 学習動機づけのための導入教育実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖本大学と共同で初年次教育を実施した。(中野キャンパス)</li> </ul> <p>(3) 授業満足度の向上〔改善につながる授業アンケートの実施等〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖アンケートの実施率は、昨年度に続き100%を達成した。</li> <li>❖授業満足度は、1年次生・2年次生全体で、満足した者の割合が約89%、不満足者の割合は約11%であり高い評価であった。</li> <li>❖座学系授業は、実習系授業に比べ満足度が低い傾向にあるが、良い点を伸ばすための改善努力をしていく。</li> </ul> <p>(4) 留年・退学学生数の低減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖欠席過多、進度不振学生の早期発見・早期対応に取り組んだ。</li> <li>❖習熟度別授業を実施した。</li> <li>❖新入生の留年・退学率が6%と目標の10%以下を達成できた。(昨年度17%)</li> </ul>
<p><b>②</b>整備士等資格取得の支援</p>	<p>□1級・2級自動車整備士資格取得支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖基礎から復習させる勉強会、とことん面倒をみる個人指導などの現行支援システムを実施し、次の合格率となった。なお、すべて100%合格の3冠は達成できなかったが、全国平均79%(2級ガソリン)は大きく上回ることができた。</li> </ul> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1級 : 修了生11名全員合格</li> <li>・2級ガソリン: 94%(77名/82名)</li> <li>・2級ジーゼル: 97%(34名/35名)</li> </ul> </div>
<p><b>③</b>学生の興味を取り入れたカリキュラムの導入</p>	<p>□板金塗装ゼミなど実習系ゼミを実施した。</p>
<p><b>④</b>学生生活の満足度向上</p>	<p>(1) 学生交流会、研修旅行の実施等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖卒業時のアンケート結果は、91%が満足しているとの評価を得ている。</li> </ul> <p>(2) 2級ガソリン、2級ジーゼルの講習会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖満足度は、90%で高い評価を維持している。</li> </ul>

2 より一層の個性化と特色化

事業計画	事業報告
<p>●教育環境・設備の改善</p>	<p>(1) 装置・教材の充実(実習車購入、リフト設置等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖オートリフト2基、実習車教台を購入した。</li> </ul> <p>(2) 建物設備の充実、改修、改善(実習棟エレベータ改修、女子トイレ改修)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖4号館エレベータ改修、6号館1階女子トイレ美化などを計画通り実施した。</li> </ul>

### 3 安全・安心、快適サービスを提供できる施設・設備の整備充実

事業計画	事業報告
①入学定員の確保	<p>□本短大の教員や専任の入試相談員が高校訪問を活発に実施し、ホームページや広報資料の充実を図り、オープンキャンパスの多数回開催、機械系の高校教員との教育懇談会開催など、多くの活動を行った。</p> <p>①ホームページと広報資料の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖ホームページの定期的更新、魅力アピール用パンフレットを作成した。</li> </ul> <p>②オープンキャンパス・体験入学の魅力アップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖楽しいイベント付のオープンキャンパスを年4回実施した。</li> </ul> <p>③高校訪問の効果的実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖重点訪問校設定、説明用持参物の検討を行った。</li> </ul> <p>④出前授業等による短大の魅力紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖自動車整備の重要性、整備士の仕事の魅力を紹介した。</li> </ul> <p>⑤入試制度の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖女子優遇制度を導入した。</li> <li>❖入学者は86人で定員130名を下回ったが、昨年度の72人と比較し、14人増加した。</li> </ul>
②就職支援活動の強化と多様化	<p>□就職支援活動の強化を図るために、次のことを実施した。</p> <p>①就職3点セットによる支援・指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖就職ゼミ受講、会社訪問、会社説明会出席を強く奨励している。</li> </ul> <p>②企業と短大の良好な信頼関係の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖教員による企業訪問、情報交換・懇談会を実施した。</li> </ul> <p>③整備以外の求人開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖希望者に対する就職率は100%、進学率は100%で目標を達成している。</li> <li>❖卒業生に対する進路決定率は97.5%で目標90%以上を達成している。</li> </ul>
③社会貢献	<p>□地域参加型イベントの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖レトロバス試乗会、子供もの作り教室等を開催した。</li> <li>❖「自短夏祭り」を実施。参加者約300人、当日NHKで放映された。</li> </ul>

### 4 その他

事業計画	事業報告
①自己点検・評価活動	<p>(1) 平成20・21年度の自己点検・評価報告書は、編集を完了し印刷段階である。</p> <p>(2) 愛知工科大学自動車短大との相互評価実施に向けて、日程、評価内容などを調整している。(来年度実施する予定にしている。)</p> <p>(3) 平成17年度、第三者評価課題のフォロー</p> <p>①アンケート調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖卒業生アンケート、各種委員会規定の整備など</li> <li>❖アンケートは進まず。</li> </ul> <p>②規定の整備はある程度進捗。</p>
②経費の有効活用	<p>□ほぼ計画どおり執行した。</p>

高校

1 学生・生徒に最高の教育を提供

事業計画	事業報告
<p>①総合学科の新設</p>	<p>□経緯</p> <p>①平成20年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖中学生の普通科志向の高まりを受けて、総合システム科への入学者数の低迷を脱却する方策として、総合学科の設置を検討し、並行して教育課程の編成作業に着手した。</li> </ul> <p>②平成21年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖前年度に引き続き教育課程を編成し、本科に次の4系を設置し、2年次から選択することとした。</li> <li>➢情報マネジメント系</li> <li>➢国際コミュニケーション系</li> <li>➢数理サイエンス系</li> <li>➢情報デザイン系</li> </ul> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 20px;"> <p>□平成22年度</p> <p>総合学科1学年に156名が入学。4学級（1学級39名）とした。</p> </div>
<p>②生徒による授業アンケート（授業評価）の継続実施</p>	<p>□授業アンケートの実施状況</p> <p>①全教科、全教員、全生徒を対象に前期・後期にそれぞれ1回実施した。</p> <p>②生徒、教員相互で当該授業についてのアンケートを行った。</p> <p>③意欲度、好感度、理解度、関心度、学力向上実感等について各授業はもとより各教科、各科コース毎に分析を行った。</p> <p>④分析資料は、主に次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖学校全体としての評価</li> <li>❖各個人別各授業分析表（各授業）</li> <li>❖各教科分析資料</li> <li>❖各授業の自由記述意見表（各個人）</li> </ul> <p>⑤アンケート実施後について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖各教科会において分析結果を基に今後の対応についての検討を行った。（教科としての取り組みを報告）</li> <li>❖各個人は「授業改善意思表明シート」を校長に提出した。</li> <li>❖分析報告書によると、各教科とも、年々数値的に改善されているという高い評価を受けた。</li> </ul>



## 2 安全・安心、快適サービスを提供できる施設・設備の整備充実

事業計画	事業報告
①グラウンドネットの改修	□本高校グラウンド南側（野球グラウンド レフト）後方のネットの増幅を行った。
②ふれあい橋の架け替え工事	□架け替え経過 ①計画着手（平成 19 年度） ②架け替え工事（平成 21 年度） ❖ 10 月 16 日＝着工 ❖ 3 月 30 日＝竣工
③学校運営システムの本格的稼働	□稼働経過 ①昨年度まで ❖実質的運用にあたり、出席・成績管理、時間割機能を中心に稼働し、全職員に活用を徹底した。 ②今年度 ❖主に学籍・出席・成績管理等、特に生徒指導に関する面での情報管理について充実させた。 ❖通知表、調査表、生徒指導要録などの帳票も統一し、本システムから出力できるようにし、次年度はカスタマイズを進める予定にしている。 ③職員管理 ❖ポータルサイトを稼働させ、連絡事項、会議案内、諸施設の利用予約、スケジュール管理などを行い、学校運営の IT 化をさらに進めた。 ❖ファイルサーバーを利用した文書管理を推進している。 ④来年度以降 ❖さらに多機能が稼働できるように充実を図る予定にしている。 ❖特に、入試関係ソフトの導入は喫緊の要事である。

## 3 高大連携の一層の充実

事業計画	事業報告
①国際教育交流事業の推進	(1) オーストラリア姉妹校訪問は新型インフルエンザ流行により中止した。 (2) イギリス姉妹校から生徒 10 名、新卒教師 2 名が来校（10 月 21 日～30 日）
②系列大学との連携	□連携状況 ①普通科 2 学年「総合的な学習の時間」における「おもしろ技術体験」（平成 17 年開始）及び「おもしろ社会ウォッチング」（平成 19 年開始）にそれぞれ本大学 3 学部から教員の派遣を依頼し、授業を実施 ②総合システム科情報コース 2 年生を対象に 3 学部からの教員による講座を開設した。 ③本高校から 2 名の教員が本大学の遺伝子工学 I 及び音楽 I・II を、それぞれ担当した。

#### 4 地域における知識とノウハウの提供

事業計画	事業報告
<p>①生徒募集活動</p>	<p>□生徒募集活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①配付用パンフレット・ちらし・ポスター作成</li> <li>②中学校訪問（4～6回）</li> <li>③中学校先生対象入試説明会（2回）</li> <li>④私塾対象入試説明会（5回）</li> <li>⑤保護者対象入試説明会（8月29日）</li> <li>⑥オープンスクール参加者名簿作成</li> <li>⑦オープンスクール（9月27日）</li> <li>⑧私学フェスタ（10月4日）</li> <li>⑨本高校独自の「国際模試」を実施（10月11日）</li> </ul>
<p>②地域への奉仕活動並びに 地域との交流活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 本高校クリーンキャンペーンを実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>❖平成19年1月から継続し、毎週1学級全員による地域清掃活動を実施した。</li> </ul> </li> <li>(2) 地元の盆踊を地元の方の指導を受け、体育祭で披露 <ul style="list-style-type: none"> <li>❖本高校3年生が本校周辺地域の盆踊りを地元住民の方々から指導を受け、体育祭で演じた。</li> <li>❖平成20年度は「海田音頭」、今年度は「熊野筆まつり唄」を演じた。</li> <li>❖来年度は、現在のところ東広島市内を検討している。</li> </ul> </li> <li>(3) 海田町民グランドゴルフ大会 <ul style="list-style-type: none"> <li>❖平成19年度から始めた同大会は、新型インフルエンザの流行により中止した。</li> <li>❖この大会は、文化祭に合わせて実施し、本高校を理解していただくことに大きく貢献してきた。来年度は是非とも実施したいと考えている。</li> </ul> </li> </ul>

## 財務の概要（平成 21 年度決算の概要）

### 1 資金収支計算書

資金収支計算書は、学校法人における資金の収入・支出状況を記載したものである。

ここでは、学生生徒等納付金や補助金といった収入ばかりでなく、借入金のようなのちに返済しなければならないようなものも含めて、学校法人に入ってきたすべての現金は「収入」として記載する。

同様に、学校法人から出ていった現金はすべて支出として定義される。したがって、人件費や教育研究経費として支払った部分だけでなく、例えば株式への投資も、「株式を購入したために現金を支出した。」といったようにとらえて、資金収支計算書では支出の部に記載することになる。

資金収支計算書について、その主な内容は次のとおりである。

資金収入合計は 6,206 百万円（百万円未満を四捨五入。以下同じ。）で、資金支出の合計は 3,840 百万円で次年度繰越支払資金は 2,366 百万円となっている。

#### 収入の部

項目	主な内容
学生生徒等納付金収入	1,932 百万円の収入で、前年と比べ 191 百万円の減収となっている。
補助金収入	689 百万円で、主な内訳は国庫補助金が 280 百万円、県補助金 406 百万円となっている。
資産運用収入	70 百万円で、主に有価証券の運用益を収入にしたものである。
雑収入	205 百万円で、退職者に係る国と県の退職財団からの交付金が主なものである。

#### (2) 支出の部

項目	主な内容
人件費支出	2,144 百万円で、主な内訳は、教員人件費 1,397 百万円、職員人件費 483 百万円となっている。
教育研究経費支出	796 百万円で、各学校の教育研究のための支出である。
管理経費支出	318 百万円で、各学校の管理運営に要した経費支出である。
借入金等返済支出	94 百万円で、借入金元金の当年度返済額である。
施設関係支出	277 百万円で、教育研究施設の改修に要した支出である。
設備関係支出	34 百万円で、主に教育研究用の機器、図書の購入に要した支出である。
資産運用支出	258 百万円で、主に退職給与引当特定資産への支出である。

## 2 消費収支計算書

学校法人会計基準第15条(「当該会計年度の消費収入及び消費支出の内容並びに均衡の状態を明らかにするため、消費収支計算を行うものとする。’)で定めるところにより、消費収支計算書の収入の部にはその年度の教育研究活動等の成果とみなすことができる収入を記載する。なお、借入金など返済しなければならない収入は、一時的に学校に収められたにすぎず、消費収支計算書には記載しないことになる。

例えば教育研究機器備品などを現物寄付してもらったような場合、現金そのものの授受が生じないため資金収支計算書には記載しないことになるが、消費収支計算書では現物寄付は財産の増加になることから、その額を評価して記載することになる。

一方、減価償却費のような現金をともしない経費であっても、建物等は経年するごとに財産の価値が減少するから、資金収支計算書には記載しないが、消費収支計算書の支出の部に記載することになる。

消費収支計算について、その主な内容は次のとおりである。

帰属収入合計は3,073百万円(百万円未満を四捨五入。以下同じ。)基本金組入額は228百万円であり、消費収入合計は2,845百万円であった。

消費支出は3,867百万円であり、当年度消費収支差額は1,022百万円の支出超過となった。

### 消費収入の部

項目	主な内容
学生生徒等納入金	1,932百万円で、帰属収入に対する比率は63%となっている。
寄附金	16百万円で、6百万円は現物寄附金。
補助金	689百万円で、大学・短大は国庫補助金、高校は県補助金が主なものである。
資産運用収入	70百万円で、受取利息・配当金収入が主なものである。
雑収入	290百万円で、大学・短大は私大退職金財団、高校は県退職金財団の交付金が主なものである。
基本金組入額合計	228百万円で、第1号基本金、第3号基本金及び第4号基本金の組入である。 第1号基本金：自己資金で施設設備に充てた金額。 第3号基本金：基金として継続的に保持し、かつ、運用する金銭、資産の額。 第4号基本金：恒常的に保持すべき資金。

### 消費支出の部

項目	主な内容
人件費	2,260百万円で、帰属収入に対する比率は74%である。
教育研究経費	1,224百万円で、減価償却額を除くと796百万円である。主に研究費、教材費、奨学費等の経常的な経費として大学、短大及び高校の教育と研究の活動費である。
管理経費	353百万円で、減価償却額を除くと318百万円である。教育研究以外に要した経費である。
資産処分差額	16百万円で、有価証券処分差額7百万円を計上している。

### 当年度消費収支差額等

項目	主な内容
当年度消費支出超過額	消費収入と消費支出の差額は1,022百万円の支出超過であり、基本金組入分を除くと794百万円の支出超過となる。
基本金取崩額	89百万円で、これは学校会計基準の改正により平成17年度会計から基本金の取崩し要件が緩和されたことによる取崩しである。

## 平成 21 年度主要財務比率

比 率	算 式	平成 21 年度（決算）
人件費比率	（人件費 ÷ 帰属収入 × 100）	73.54%
人件費依存率	（人件費 ÷ 学生生徒等納付金 × 100）	116.98%
教育研究経費比率	（教育研究経費 ÷ 帰属収入 × 100）	39.83%
管理経費比率	（管理経費 ÷ 帰属収入 × 100）	11.49%
消費支出比率	（消費支出 ÷ 帰属収入 × 100）	125.84%

### 3 貸借対照表

学校法人が保有する資産は、固定資産と流動資産とする。

固定資産・・・原則として1年以上にわたって保有するものとみなされている資産を指し、また、有形固定資産（土地や建物等）及びその他の固定資産（長期的に保有することとなっている有価証券等）とする。

流動資産・・・現金預金や一時的に保有する有価証券及び文房具や実験用資材といった消耗品の未使用分などを含む。

学校法人の負債としては、固定負債及び流動負債とする。

固定負債・・・長期借入金、退職給与引当金その他1年を超えて返済や支給が到来するものを含む。

流動負債・・・短期借入金その他1年以内に返済期限が到来するものを含む。

また、基本金は、自己資金によって購入した施設・設備等の取得額あるいは学校法人の円滑な運営に必要な運転資金の額である。

貸借対照表について、前年度末からの増減の主な理由は次のとおりである。

#### (1) 資産の部

項 目	主な内容
有形固定資産	減価償却のための減となっている。
その他の固定資産	主に、有価証券の減と退職給与引当特定資産の増である。
流動資産	主に、現金預金の減である。

#### (2) 負債の部

項 目	主な内容
固定負債	退職給与引当金の増加による増となっている。

#### (3) 基本金の部

項 目	主な内容
基本金	第1号基本金等の増加による増となっている。

資 金 収 支 計 算 書

平成21年 4月 1日から  
平成22年 3月 31日まで

<総括表>

(単位 円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	1,905,369,000	1,931,802,650	△ 26,433,650
手数料収入	48,092,000	50,611,900	△ 2,519,900
寄付金収入	4,105,000	9,785,000	△ 5,680,000
補助金収入	613,178,000	689,070,023	△ 75,892,023
国庫補助金収入	259,177,000	279,874,000	△ 20,697,000
県補助金収入	349,302,000	405,653,316	△ 56,351,316
市町村補助金収入	4,699,000	3,542,707	1,156,293
資産運用収入	104,594,000	70,338,529	34,255,471
資産売却収入	57,387,000	59,697,956	△ 2,310,956
事業収入	15,811,000	25,174,904	△ 9,363,904
雑収入	166,330,000	205,207,622	△ 38,877,622
借入金等収入	80,000,000	80,000,000	0
前受金収入	427,680,000	379,704,000	47,976,000
その他の収入	268,224,000	403,891,541	△ 135,667,541
資金収入調整勘定	△ 422,378,000	△ 444,443,085	22,065,085
前年度繰越支払資金	2,745,259,285	2,745,259,285	
収入の部合計	6,013,651,285	6,206,100,325	△ 192,449,040
支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	2,372,148,000	2,144,080,193	228,067,807
教育研究経費支出	937,872,012	796,436,760	141,435,252
管理経費支出	398,188,576	318,138,563	80,050,013
借入金等利息支出	13,717,000	13,195,949	521,051
借入金等返済支出	93,888,000	93,888,000	0
施設関係支出	350,248,000	277,338,950	72,909,050
設備関係支出	43,212,630	34,499,652	8,712,978
資産運用支出	261,130,000	258,343,616	2,786,384
その他の支出	203,021,065	203,021,065	0
[予備費]	( 40,816,283 )		
	29,183,717		29,183,717
資金支出調整勘定	△ 198,712,000	△ 299,101,153	100,389,153
次年度繰越支払資金	1,509,754,285	2,366,258,730	△ 856,504,445
支出の部合計	6,013,651,285	6,206,100,325	△ 192,449,040

資 金 収 支 内 訳 表

平成21年 4月 1日から  
平成22年 3月31日まで

収 入 の 部

<総括表>

(単位 円)

科 目	部 門		
	広島国際学院大学	広島国際学院大学 自動車短期大学部	広島国際学院 高等学校
学生生徒等納付金収入	1,167,559,000	187,880,000	576,363,650
手数料収入	14,562,550	2,558,390	33,490,960
寄付金収入	9,560,000	225,000	0
補助金収入	243,740,923	36,138,844	409,190,256
国庫補助金収入	243,673,000	36,113,000	88,000
県補助金収入	0	0	405,653,316
市町村補助金収入	67,923	25,844	3,448,940
資産運用収入	40,295,489	5,688,036	24,355,004
資産売却収入	32,146,938	4,591,836	22,959,182
事業収入	18,348,459	5,085,000	1,741,445
雑収入	111,730,133	1,104,332	88,857,764
借入金等収入	0	0	80,000,000
計	1,637,943,492	243,271,438	1,236,958,261

支 出 の 部

<総括表>

(単位 円)

科 目	部 門		
	広島国際学院大学	広島国際学院大学 自動車短期大学部	広島国際学院 高等学校
人件費支出	1,127,918,129	216,023,862	765,555,386
教育研究経費支出	602,500,571	63,603,151	130,333,038
管理経費支出	219,110,174	36,611,897	34,736,619
借入金等利息支出	11,286,945	1,187,662	721,342
借入金等返済支出	61,600,000	14,288,000	18,000,000
施設関係支出	107,934,800	3,869,250	137,235,000
設備関係支出	26,514,826	5,520,781	2,464,045
計	2,156,865,445	341,104,603	1,089,045,430

## 消費収支計算書

平成21年 4月 1日から  
平成22年 3月 31日まで

&lt;総括表&gt;

(単位 円)

消費収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	1,905,369,000	1,931,802,650	△ 26,433,650
手数料	48,092,000	50,611,900	△ 2,519,900
寄付金	6,388,000	16,192,776	△ 9,804,776
補助金	613,178,000	689,070,023	△ 75,892,023
国庫補助金	259,177,000	279,874,000	△ 20,697,000
県補助金	349,302,000	405,653,316	△ 56,351,316
市町村補助金	4,699,000	3,542,707	1,156,293
資産運用収入	104,594,000	70,338,529	34,255,471
事業収入	15,811,000	25,174,904	△ 9,363,904
雑収入	166,330,000	289,644,462	△ 123,314,462
帰属収入合計	2,859,762,000	3,072,835,244	△ 213,073,244
基本金組入額合計	△ 400,416,000	△ 227,671,486	△ 172,744,514
消費収入の部合計	2,459,346,000	2,845,163,758	△ 385,817,758
消費支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	2,519,455,000	2,260,148,997	259,306,003
教育研究経費	1,485,214,812	1,224,119,287	261,095,525
管理経費	440,683,576	352,777,039	87,906,537
借入金等利息	13,717,000	13,195,949	521,051
資産処分差額	16,302,461	16,302,461	0
徴収不能引当金繰入額	794,000	794,000	0
[予備費]	( 39,421,849 )		
	30,578,151		30,578,151
消費支出の部合計	4,506,745,000	3,867,337,733	639,407,267
当年度消費支出超過額	2,047,399,000	1,022,173,975	
前年度繰越消費支出超過額	743,493,702	743,493,702	
基本金取崩額	0	89,163,540	
翌年度繰越消費支出超過額	2,790,892,702	1,676,504,137	



消費収支内訳表

平成21年 4月 1日から  
平成22年 3月31日まで

消費収入の部

<総括表>

(単位 円)

科 目	部 門	広島国際学院大学	広島国際学院大学 自動車短期大学部	広島国際学院 高等学校
学生生徒等納付金		1,167,559,000	187,880,000	576,363,650
手数料		14,562,550	2,558,390	33,490,960
寄付金		14,502,889	997,912	691,975
補助金		243,740,923	36,138,844	409,190,256
国庫補助金		243,673,000	36,113,000	88,000
県補助金		0	0	405,653,316
市町村補助金		67,923	25,844	3,448,940
資産運用収入		40,295,489	5,688,036	24,355,004
事業収入		18,348,459	5,085,000	1,741,445
雑収入		111,730,133	21,419,561	113,712,650
帰属収入合計		1,610,739,443	259,767,743	1,159,545,940
基本金組入額合計		△ 140,166,060	△ 5,021,256	△ 69,801,220
消費収入の部合計		1,470,573,383	254,746,487	1,089,744,720

消費支出の部

<総括表>

(単位 円)

科 目	部 門	広島国際学院大学	広島国際学院大学 自動車短期大学部	広島国際学院 高等学校
人件費		1,271,771,469	215,580,942	738,836,210
教育研究経費		935,437,324	94,288,464	194,393,499
管理経費		248,214,043	38,146,148	37,294,776
借入金等利息		11,286,945	1,187,662	721,342
資産処分差額		12,398,037	932,375	2,972,049
徴収不能引当金繰入額		794,000	0	0
消費支出の部合計		2,479,901,818	350,135,591	974,217,876

## 貸借対照表

平成22年 3月31日

(単位 円)

資 産 の 部				
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増	減
固 定 資 産	18,793,322,781	18,976,099,372	△	182,776,591
有 形 固 定 資 産	10,094,366,806	10,247,313,772	△	152,946,966
土 地	2,493,200,497	2,477,624,497		15,576,000
建 物	5,609,582,259	5,756,713,509	△	147,131,250
教 育 研 究 用 機 器 備 品	450,438,570	551,642,714	△	101,204,144
そ の 他 の 有 形 固 定 資 産	1,541,145,480	1,461,333,052		79,812,428
そ の 他 の 固 定 資 産	8,698,955,975	8,728,785,600	△	29,829,625
有 価 証 券	7,099,826,527	7,163,588,116	△	63,761,589
そ の 他 の 固 定 資 産	1,599,129,448	1,565,197,484		33,931,964
流 動 資 産	2,469,556,550	2,886,648,724	△	417,092,174
現 金 預 金	2,366,258,730	2,745,259,285	△	379,000,555
そ の 他 の 流 動 資 産	103,297,820	141,389,439	△	38,091,619
資 産 の 部 合 計	21,262,879,331	21,862,748,096	△	599,868,765
負 債 の 部				
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増	減
固 定 負 債	1,860,717,494	1,840,973,530		19,743,964
長 期 借 入 金	673,596,000	685,484,000	△	11,888,000
退 職 給 与 引 当 金	1,187,121,494	1,155,489,530		31,631,964
流 動 負 債	889,806,349	714,916,589		174,889,760
短 期 借 入 金	91,888,000	93,888,000	△	2,000,000
そ の 他 の 流 動 負 債	797,918,349	621,028,589		176,889,760
負 債 の 部 合 計	2,750,523,843	2,555,890,119		194,633,724
基 本 金 の 部				
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増	減
第 1 号 基 本 金	19,662,671,099	19,517,463,153		145,207,946
第 3 号 基 本 金	260,188,526	257,888,526		2,300,000
第 4 号 基 本 金	266,000,000	275,000,000	△	9,000,000
基 本 金 の 部 合 計	20,188,859,625	20,050,351,679		138,507,946
消 費 収 支 差 額 の 部				
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増	減
翌 年 度 繰 越 消 費 支 出 超 過 額	1,676,504,137	743,493,702		933,010,435
消 費 収 支 差 額 の 部 合 計	△ 1,676,504,137	△ 743,493,702	△	933,010,435
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増	減
負 債 の 部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	21,262,879,331	21,862,748,096	△	599,868,765

## 財 産 目 録

年 度	平成 21 年 度 末		備 考
科 目			
一 基 本 財 産	10,276,605,113 円		
1 土 地	450,833.82 m <sup>2</sup>	2,436,844,497 円	
2 建 物	76,677.87 m <sup>2</sup>	5,589,750,219 円	
3 構 築 物	609 件	625,267,171 円	
4 教 具 ・ 校 具 ・ 備 品	20,501 点	464,330,884 円	
5 図 書	223,848 冊	895,837,000 円	
6 そ の 他	264,575,342 円		
二 運 用 財 産	10,986,274,218 円		
1 預 金 ・ 現 金	2,366,258,730 円		
2 積 立 金	1,293,041,494 円		
3 そ の 他	7,326,973,994 円		
三 負 債 額	2,750,523,843 円		
1 固 定 負 債	1,860,717,494 円		
(1) 長 期 借 入 金	673,596,000 円		
(2) 退 職 給 与 引 当 金	1,187,121,494 円		
2 流 動 負 債	889,806,349 円		
(1) 短 期 借 入 金	91,888,000 円		
(2) そ の 他	797,918,349 円		
四 基本財産 + 運用財産	21,262,879,331 円		資産総額
五 純資産 (四 - 三)	18,512,355,488 円		正味資産

- 一 基本財産  
  学校法人の設置する私立学校に必要な施設及び設備又はこれらに要する資金
- 二 運用財産  
  学校法人の設置する私立学校の経営に必要な財産

# 監 事 監 査 報 告 書

平成 22 年 5 月 17 日

学校法人 広島国際学院  
理事長 鶴 素直 様

監 事 國光 哲郎

印

監 事 山岡 寛次

印

私たち監事は、私立学校法第 37 条第 3 項及び（学）広島国際学院寄附行為第 32 条の定めに基づき、平成 21 年度（平成 21 年 4 月 1 日から平成 22 年 3 月 31 日まで）の法人の財産状況及び理事の業務執行状況を監査いたしました。その結果につき、次のとおり報告いたします。

## 1. 監査報告の概要

監事は理事会、評議員会に出席し、理事から事業の報告を聴取し、重要な決算書類等を閲覧し、購入した施設、設備、物品についても対査確認し、改修、修繕箇所についても、その状況を確認するなかで、会計監査人と連携を図り、計算書類につき検討するなど、必要と思われる監査手続を実施した。

## 2. 監査の結果

計算書類（資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表その他明細書等）並びに財産目録は法令、寄附行為に従い、法人の財産を正しく示しているものと認め、理事の業務の執行に関しても、不正な行為がなく法令及び寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めます。